

# 幻と消えた今冬の南八ヶ岳縦走（硫黄岳から横岳）

（報告） OT

◎山行期日 2017年5月7日～8日（その前は1ヶ月前の4月3日～4日）

◎メンバー Aka(L)、Tsuka、OT

赤岳鉱泉からウンウン言いながら登って赤岩ノ頭を越えた辺りで風の息が激しくなってきた。今日は雲ひとつない快晴なので稜線上を吹き抜ける雲は見られないのだが、段々と風が強くなってゴーッという突風も聞こえ始めた。マ、何とかなるだろうと硫黄岳を越えて石室小屋の手前まで降りて来てみたが、風は強くなる一方で立っていられないくらい吹き出した。慌てて大きなケルンの陰に逃げ込む始末。

この調子では、険峻なミックス帯となっている横岳の通過では突風に吹き倒されて一気に横岳西壁か東壁のルンゼの底に叩き込まれて南無阿弥陀仏になるのではなかろうか……。と言う次第でリーダーのAkaさんは、直ちに撤退、往路を戻るとご宣託。機（危）を見るに敏、頼もしい限り。

実は、海外登山でのミックス帯のアイゼン登高訓練も兼ねて、横岳の凍っている岩稜帯をガリガリと歩こうという目的で、1ヶ月前の4月初旬にも同じメンバーで同じルートを目指したのであるが、この時は赤岩ノ頭の手前の急斜面が今にも雪崩れそうな気配になっていて、同じく撤退の憂き目。今回はその時のリベンジであったのだが、今春は2回ともツイテいないようだ。よほど日頃の行いが悪いのか？

Tsukaさんは西方浄土の阿弥陀如来がこの世の迷える衆生を済度せんと垂迹された仏さまのような人柄であり、またAkaさんは半世紀近くも前の若い頃に俄か神主となって岳友の劔岳山頂での結婚式の祭主兼仲人を務めたと言うのだから、これまた神さまの部類に違いない。一方、残る私メは如何かといえ、前世の因縁甚だ芳しくなく、加えて今生でも悪行の限りを尽くしてきた身、神仏の御加護などある筈も無し。さすれば、今春の不運は全て私奴の不徳のイタスところナリ……。

閑話休題。前回の4月初旬の時は、前夜30cmほど新たな降雪があり、ロートル3人衆には赤岳鉱泉から赤岩ノ頭までのトレースが消えた樹林帯のラッセルも結構キツかったが、それ以上に、赤岩ノ頭手前の樹林帯が切れた急斜面に昨夜の新雪が載っていて雪庇も大きく発達し、今にも雪崩れそうな雰囲気。この斜面は雪崩れることで知られている急斜面で、10年程前にも9人が雪崩に巻き込まれて死者1名・重軽傷5人の事故があった斜面である。また、僅か1週間前には、那須での高校登山講習会で8人が犠牲になった雪崩遭難事故の直後のことでもあり、その惨を繰り返さないためにもAkaリーダーは撤退を即決、これがベテラン・ロートルの分別というものであろう。

（今にも雪崩れそうな赤岩ノ頭の急斜面。画面左上の雪庇と画面左のクラックに注意。前回の4月初旬時点撮影のもの）



（10年前の雪崩発生時の斜面 長野県警撮影）



そのリベンジとして、天気予報を穴が開くほど検討し、新規の降雪は無いと確信できる日を選んで入山したのであったが・・・。

いつものとおり美濃戸に駐車して、赤岳山荘で山菜蕎麦の昼飯を食って北沢に入る。赤岳山荘のオバサンの話では、このGWの八ヶ岳は登山客がサッパリ来ず商売上がったりとのこと。お気の毒サマ。

赤岳鉱泉までの道は諸処に残雪が残ってはいたが、アイゼンを付けるほどのこともなかった。ただ、日陰では残雪が凍結していて、よく滑った。北沢の途中で、独りで下山してきた会員のKonさんにバッタリ遇った。思わぬ時間が取れたので、急遽思い立って単独で八ヶ岳縦走に来たのだそう。それにしても、文三郎道から赤岳・横岳・硫黄岳を縦走して今の時刻（午後2時前）に北沢まで下山して来ている俊足さ加減は、これはもう天狗の怪物ではなからうか。気になっていた横岳稜線の様子を聞くと、残雪はシャーベット状で、風もそれほどではなかったようだ。

赤岳鉱泉は、連休の最終日であったせいか宿泊客も僅か10人前後。既にサービスが始まっている鉱泉風呂にゆったりと浸り、個室に寛いで飲む風呂上がりのビールが堪らない。赤岳鉱泉は3～4人纏まれば一人2000円程度の追加で暖房の効いた快適な個室に泊まれるので、最近はこのメンバーはいつも個室にしている。Tsukaさんのコネで随分高価な4人ベッドの個室をこの程度の割り増し料金で提供して貰えるのが有り難い。

暖房が効いて汗ばむほどの部屋の窓からは、横岳～赤岳の西壁に夕陽が輝いているのが眺められ、やがて暮れなずむスカイラインには展望荘の灯りも点り始めて何やら幻想的な雰囲気となり、かつてどこかで眺めた景色であるような・・・と記憶を呼び戻していると、Akaさんが“規模は比べものにならないが、グリンデルワルトから見上げたアイガー東山稜とミッテルレギ小屋の景色にそっくりだヨ”と教えてくれた。言われてみればそのとうりで、Akaさん達と3年前にスイスアルプスに行った時にグリンデルワルトのホテルから眺めたアイガーとその東山稜、そこにある初登攀者・楨有恒ゆかりの山小屋ミッテルレギ・ヒュッテの情景が蘇ったのであった。

さて翌朝。ヤマテンの山岳天気予報では、本日の八ヶ岳は「快晴ではあるが西風が強く横岳～硫黄岳の稜線では風速20m/s、歩行が困難なレベル」と予報されていたが、赤岳鉱泉の辺りでは昨夜吹いていた風も収まっているようで、早朝から一片の雲も無い青空、気温も零下1℃、これはイケルと喜んで出

発した。今年のGWは平年に比べて残雪が多く残っており、赤岳鉱泉から赤岩ノ頭まではズット雪道であったが、GWのトレースがちゃんと残っていた。トレースを少しでも外すと膝まで潜るが、今回はラッセルの苦労も無く赤岩ノ頭まで2時間強で着いた。マ、ロートルとしてはこんなものであろう。



赤岩ノ頭の例の雪崩急斜面には新雪による上載積雪は無く、また、雪底は残っていたが顕著なクラックは見られず、雪崩の危険性は少ないと判断して急いでトラバースしたが、那須の大雪崩遭難事故のことが脳裏に焼き付いていて、やはり気持ちの良いモノではなかった。頭に飛び出した途端に風の洗礼を受けたが、それ以降は冒頭に書いたとおりである。頭から硫黄岳までは土が出ていてアイゼンを脱いだ。また、硫黄岳から石室小屋への道にも残雪は全く無く、更に横岳への稜線も土が出ているようだった。



(赤岩ノ頭 [右奥の白いピーク] から硫黄岳 [手前] への登り)

雲一つない快晴。硫黄岳の頂上からは北八ヶ岳の東天狗、西天狗が指呼の間に堂々とした姿を見せ、その先には未だ真っ白な蓼科山、更には後立山、槍穂などの飛騨山脈、西に目を廻せば御嶽から木曾山脈、赤石山脈の甲斐駒・仙丈・北岳も真っ白なピラミッドを蒼穹に突き上げていた。強風さえなければルンルンの登山日和であったのだが、天気には勝てない。潔く引き返して赤岳鉱泉へ下り、その足で美濃戸まで駆け降りたが、早朝からの8時間のアルバイトは途中リタイヤということもあって心なしか足が重かった。

帰宅してからこの日の風速を調べてみた。八ヶ岳上空の高層気象観測データは無いので近隣の高層気象観測網の高度 2800m の風速データから推計すると、この日の八ヶ岳稜線は風速 25m/s 程度となった。風速 25m/s という風速は、何かに掴まっていなくて立っていられないくらいの風速で、台風の暴風域に相当する風速である。最大瞬間風速では 40m/s くらいになる。5月の北アルプス稜線での月平均の最大平均風速が 15m/s 程度であり、また、富士山頂の5月の平均風速が 10m/s 程度であることと比較すれば、この強風がどの程度のものであるか推測できよう。

話が更に煩瑣になって恐縮であるが、この強風をもたらした原因は、前日までは日本海沿岸部付近を流れていたジェット気流（上空 9000m の偏西風、風速 50~60m/s）がこの日は日本列島の太平洋沿岸部まで蛇行南下し、その影響で八ヶ岳にも強風をもたらしたものである。

#### 《記録》

5月7日： 11:00 美濃戸 11:45~（北沢経由）~14:15 赤岳鉱泉

8日： 4:00 起床 晴・外気温マイナス1度 5:10 赤岳鉱泉~7:25 赤岩ノ頭~8:30 硫黄岳山荘への鞍部  
~9:15 赤岩ノ頭 9:40~11:10 赤岳鉱泉 11:25~13:00 美濃戸